「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善に関する調査・研究

教科教育室　真鍋昌嗣　横田義広　都築克征
亀岡修　牧ゆかり　近藤安美
加藤伸弥　藤野由起子　飛田善広
三瀬裕子　松田詩織　越智亮平
嶋家健市　和田知子　清水裕士

【要　約】

新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、「生きる力」の育成を目指すことが求められている。そこで、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善に向けた、学校への研修支援の研究に２か年継続で取り組むこととした。２年次となる本年度は、校内研修の充実を支援するために、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を行うための研修パッケージを作成し、協力学校に活用を依頼して、その有効性の検証を行った。

【キーワード】　主体的・対話的で深い学び　授業改善　校内研修の充実　研修パッケージ

１　研究の目的

新しい学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、児童生徒に生きる力を育むことが求められており、県内の各学校において、新学習指導要領のねらいに沿うよう取り組んでいるところである。

１年次の研究で、教員に行った授業改善に関するアンケート調査からは、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に、真摯に取り組む教員の姿が見られた。一方で、「新学習指導要領に関する理解に不安を感じている」「個で教科指導力を高める取組をしているが、学校組織で学ぶ研修の機会が少ない」という課題が見えてきた。

そこで、２年次である本年度は、教員同士の学び合い、高め合いが活発に行われ、それぞれの教員が日々行う授業実践において、一人一人の子どもが主役の「主体的・対話的で深い学び」を実現するための、校内研修の充実に向けた支援を行うこととし、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善の手立てについて学校全体で学べる、研修パッケージを作成した。そして、協力学校に研修パッケージを使用した研修の実施を依頼して、その有効性を検証することとした。

２　研究の内容

⑴　研修パッケージの作成

ア　研修パッケージの活用イメージ

１年次の調査結果において、教員が「何から取り組めばよいか分からず、後回しになっている」「教材研究を行う時間的余裕がない」などの悩みを抱えている現状が見えてきた。そこで、「学校負担は小さく、研修効果は大きく」を念頭に置いて学校への研修支援を検討し、①学校が行う準備を極力少なくする、②授業に役立つ具体的、実践的な内容を提示する、③演習や協議を行うアクティブな研修にする、という３点を考慮して研修パッケージを作成した。

研修時間は約40分とし、参加する教員は動画を視聴した後、演習や協議を行い、学びを深めたり、共有したりする。そして、学んだ内容を授業改善に生かすという想定である（図１）。

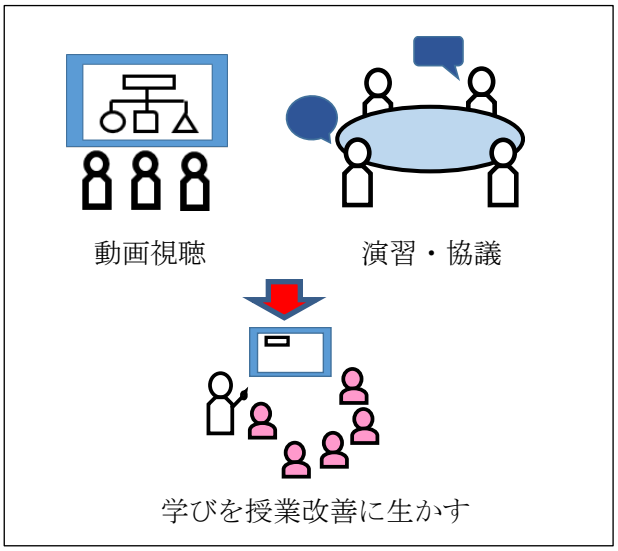


図１　研修パッケージの活用イメージ

イ　研修パッケージの内容

１年次の調査結果を基に、授業改善の取組に関する項目（14項目）の中から、特に教員が求めていると考えられるものを校内研修で取り上げるテーマとして選択し、５種類の研修セットを作成した。それらをまとめたものが研修パッケージである。研修セットは、基礎的内容と実践的内容に分類し、基礎的内容のセットをＡ、実践的内容のセットをＢとした（表１）。

表１　研修パッケージの内容

研修セットＡ	「主体的・対話的で深い学び」について
所要時間	動画（10分）
研修セットＢ－１	学習指導要領についての理解
所要時間40分	動画（14分）　演習（20分） まとめ（６分）
準備物	ペン５色、演習用ワークシート
研修セットＢ－２	教科等を横断した教育課程の設定
所要時間40分	動画（18分）　演習（20分） まとめ（２分）
準備物	演習用ワークシート
研修セットＢ－３	思考ツールの活用
所要時間40分	動画（12分）　演習（25分） まとめ（３分）
準備物	付箋又はタブレット
研修セットＢ－４	評価の工夫
所要時間40分	動画（10分）　演習（25分） まとめ（５分）

ウ　研修セットの構成及び活用方法

研修セットは、以下の構成とした。

- 研修動画
- 配付資料
- 企画書（研修進行案）
- 演習用ワークシート…Ｂ－１、Ｂ－２のみ

本センターが、協力学校に研修パッケージのデータを提供する。研修パッケージは、校内研修において活用するものであるが、教員一人一人が自己研修でも活用できるように、全ての研修セットの動画視聴が可能である。

協力学校は、企画書を基に動画の内容や進行方法等を確認して、使用する研修セットを選択し、研修を実施する。

研修動画は、10～20分で視聴できる内容にして、それぞれの研修セットの内容が明確になるよう、研修動画の始めに研修のねらいを示した（図２）。

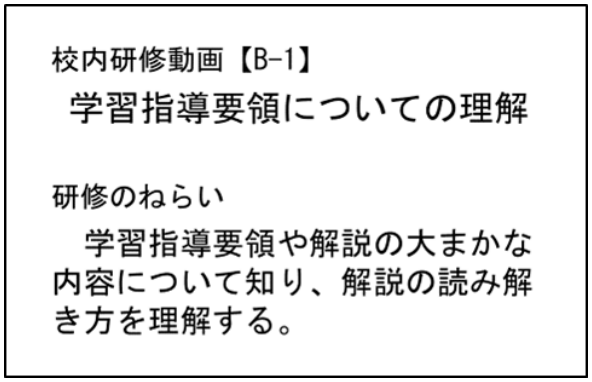


図２　研修のねらい提示例（Ｂ-１　学習指導要領についての理解）

研修セットＡは「主体的・対話的で深い学び」について、学習指導要領と照らし合わせて理解を深め、授業改善の基本的な内容について研修できるようにした（図３）。

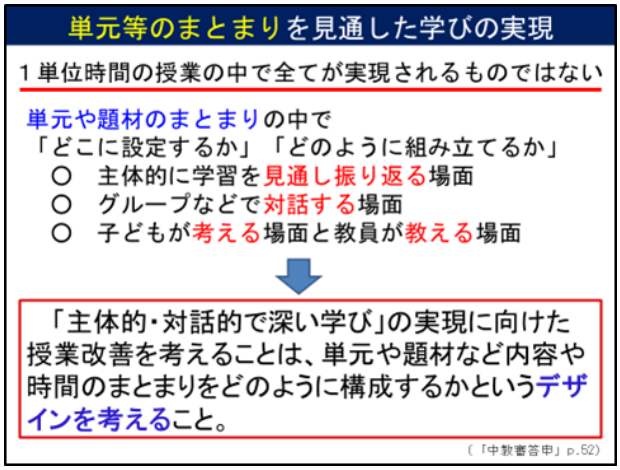


図３　研修セットＡ「主体的・対話的で深い学び」について

研修セットＢは、実践的内容について研修できるようにした。前半部で学習指導要領等の内容について触れ、そのテーマがなぜ重要なのか、何が求められているのかなどを押さえた。後半部は、実践例等を示しながら主体的・対話的で深い学びを実現するための具体的な手立て等を

紹介した（図４）。

学習評価の工夫

【ルーブリックの例】　小学校外国語科（話すこと［発表］）

パフォーマンス課題

交流プログラムで出会う海外の小学生に自分が紹介したい地域の良さ（食べ物、行事、遊び）を発表しよう。

	A（5）	B（3）	C（1）
内　容	地域についての説明や感想を適切に伝えていた。また、単語や文を付け足して相手の理解を深める内容となっていた。	伝えたいものを選んで調べ、地域についての説明や感想を伝えていた。	お手本を使った発表にとどまっていた。
声（大きさや明瞭さ）	大きく明瞭な声で、感情を込めて話すことができた。	相手に届く声で話せたが、時々不明瞭で分かりにくかった。	声が小さく、伝わりにくかった。
コミュニケーションの態度（目線、積極性）	アイコンタクトをしっかり保ち、ジェスチャーを用いて話すことが現出できた。	アイコンタクトにも気を付けていたが、やや消極的な態度であった。	アイコンタクトがあまりなく、積極性が見られなかった。

図４　具体的な手立ての紹介画面（B-４　評価の工夫）

研修セットＢには、演習・協議を組み込み、各校の取組について共通理解を図ったり、教員一人一人の考え方や具体的な手法を共有し、授業改善について考えを深めたりすることができるようにした。

例えば、研修セットＢ－１の動画は、学習指導要領解説の文章に下線を引きながら、内容を理解する演習を行う。一時停止のマークが表示されたら動画を止め、演習を行うようにした（図５～７）。

言　葉	取り扱い方	色
～を通して・～を行い	方法	━
～できるようにする 身に付ける	主な内容	━
触れるようにする	主な内容を補足するもの ※触れる内容が主な内容を超えないようにする	┅
適宜	一つ以上選択すればよい	┅
取り扱う・取り上げる	示されているものを全て扱う	━
配慮する	指導する際、特に留意すること	━

色や線の種類を決めましょう

図５　演習画面１（B-１　学習指導要領についての理解）

【小】家庭科

材料に適したゆで方については、硬い食品を柔らかくするなど、食べやすくおいしくするために目的に応じたゆで方があることを理解し、適切にゆ[redacted]できるようにする。ゆでる材料とし[redacted]菜[redacted]ゃがいもなどを扱い、水からゆで[redacted]の[redacted]騰してからゆでるものがあること[redacted]ゆ[redacted]ことによってかさが減るものは、[redacted]の[redacted]食べることができるなどの調理の特性を理解できるようにする。また、じゃがいもの芽や緑化した部分には、食中毒を起こす成分が含まれているので取り除く必要があることにも触れるようにする。

図６　演習画面２（B-１　学習指導要領についての理解）

【小】家庭科

材料に適したゆで方については、硬い食品を柔らかくするなど、食べやすくおいしくするために目的に応じたゆで方があることを理解し、適切にゆでることができるようにする。ゆでる材料として青菜やじゃがいもなどを扱い、水からゆでるものと沸騰してからゆでるものがあることや、ゆでることによってかさが減るものは、多くの量を食べることができるなどの調理の特性を理解できるようにする。また、じゃがいもの芽や緑化した部分には、食中毒を起こす成分が含まれているので取り除く必要があることにも触れるようにする。

図７　演習画面３（B-１　学習指導要領についての理解）

研修セットＢ－２の動画では、協議内容と協議のポイントを具体的に示している。協議のポイントを明確にすることで、研修内容を深めることができるようにした（図８、９）。

３　研究協議

①　社会科と国語科の横断型教材の改善

②　家庭科と国語科の横断型教材の改善

③　別の横断型教材の作成

①～③のいずれかのテーマで協議し、教材づくりのきっかけを作りましょう

図８　協議画面１（B-２　教科等を横断した教育課程の設定）

３　研究協議

協議のポイント（①、②を例に）
- 研究の目的、研究の方法は適切か
- 学習課題の設定とまとめは、これでよいか
- 社会科、家庭科から国語へつなげる流れでよいか
- 社会科、家庭科の学習内容、時間数は妥当か
- 国語科の学習内容、時間数は妥当か
- 振り返りの内容、時間数は妥当か
- 研究の成果に無理はないか
- 実現可能な内容になっているか　等

協議・発表を行い、互いの成果を共有しましょう

図９　協議画面２（B-２　教科等を横断した教育課程の設定）

さらに、研修担当者の負担を小さくするため、演習用ワークシートを提供した（図10）。

【B-2】教科等を横断した教育課程の設定　ワークシート③　「横断型教材の作成」

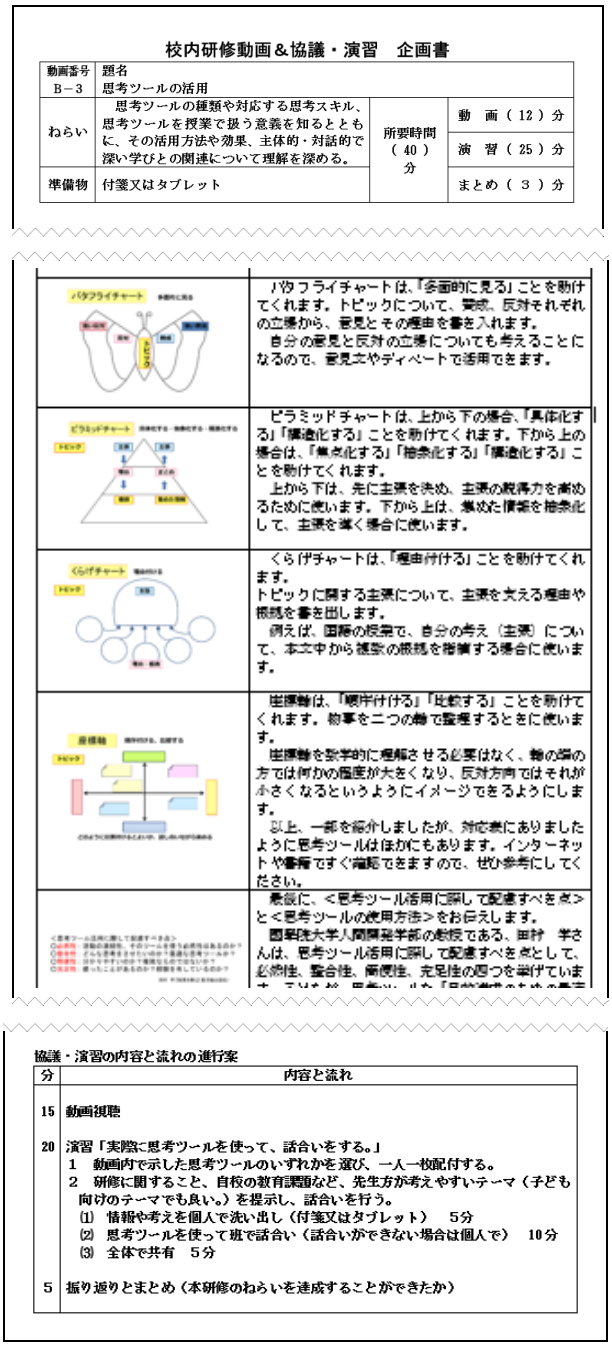
対象学年（　　年）　教科書の単元（　　科）＿＿＿＿＿＿＿＿

（　　科）＿＿＿＿＿＿＿＿

（　　科）＿＿＿＿＿＿＿＿

図10　演習用ワークシート（B-２　教科等を横断した教育課程の設定）

また、研修パッケージを効果的かつ負担なく活用してもらえるように、研修担当者用の企画書（研修進行案）を添付した。企画書には、研修のねらいや所要時間、準備物の説明、研修動画で視聴する画面とその読み原稿、研修の時間配分、演習や協議の流れ等を示した（図11）。



校内研修動画＆協議・演習　企画書

動画番号 B－3	題名 思考ツールの活用		
ねらい	思考ツールの種類や対応する思考スキル、思考ツールを授業で扱う意義を知るとともに、その活用方法や効果、主体的・対話的で深い学びとの関連について理解を深める。	所要時間 （40） 分	動　画（12）分 演　習（25）分
準備物	付箋又はタブレット		まとめ（3）分

バタフライチャート	バタフライチャートは、「多面的に見る」ことを助けてくれます。トピックについて、賛成、反対それぞれの立場から、意見とその理由を書き入れます。 自分の意見と反対の立場についても考えることになるので、意見文やディベートで活用できます。
ピラミッドチャート	ピラミッドチャートは、上から下の場合、「具体化する」「構造化する」ことを助けてくれます。下から上の場合は、「焦点化する」「抽象化する」「構造化する」ことを助けてくれます。 上から下は、先に主張を決め、主張の説得力を高めるために使います。下から上は、集めた情報を抽象化して、主張を導く場合に使います。
くらげチャート	くらげチャートは、「理由付ける」ことを助けてくれます。 トピックに関する主張について、主張を支える理由や根拠を書き出します。 例えば、国語の授業で、自分の考え（主張）について、本文中から複数の根拠を指摘する場合に使います。
座標軸	座標軸は、「順序付ける」「比較する」ことを助けてくれます。物事を二つの軸で整理するときに使います。 座標軸を数学的に理解させる必要はなく、軸の端の方では何かの程度が大きくなり、反対方向ではそれが小さくなるというようにイメージできるようにします。 以上、一部を紹介しましたが、対応表にありましたように思考ツールはほかにもあります。インターネットや書籍ですぐ確認できますので、ぜひ参考にしてください。
<思考ツール活用に際して配慮すべき点> ○思考ツールは、子どもの思考を可視化するものです。 ○思考ツールは、子どもの思考を整理するものです。 ○思考ツールは、子どもの思考を深めるものです。 ○思考ツールは、子どもの思考を広げるものです。 ○思考ツールは、使いもしないのに無理やりさせているものです。 ※ 千葉県教育センター研究紀要より	最後に、<思考ツール活用に際して配慮すべき点>と<思考ツールの使用方法>をお伝えします。 国学院大学人間開発学部の教授である、田村　学さんは、思考ツール活用に際して配慮すべき点として、必然性、整合性、簡便性、完足性の四つを挙げています。

協議・演習の内容と流れの進行案

分	内容と流れ
15	動画視聴
20	演習「実際に思考ツールを使って、話合いをする。」 1　動画内で示した思考ツールのいずれかを選び、一人一枚配付する。 2　研修に関すること、自校の教育課題など、先生方が考えやすいテーマ（子ども向けのテーマでも良い。）を提示し、話合いを行う。 (1)　情報や考えを個人で洗い出し（付箋又はタブレット）　5分 (2)　思考ツールを使って班で話合い（話合いができない場合は個人で）　10分 (3)　全体で共有　5分
5	振り返りとまとめ（本研修のねらいを達成することができたか）

図11　企画書（B－3　思考ツールの活用）

⑵　協力学校における活用

研修パッケージの活用を依頼した協力学校２校は、それぞれ１学年２クラス程度の中規模の小学校で、教職経験年数５年未満の教員と15年以上の教員が多い学校である（図12）。

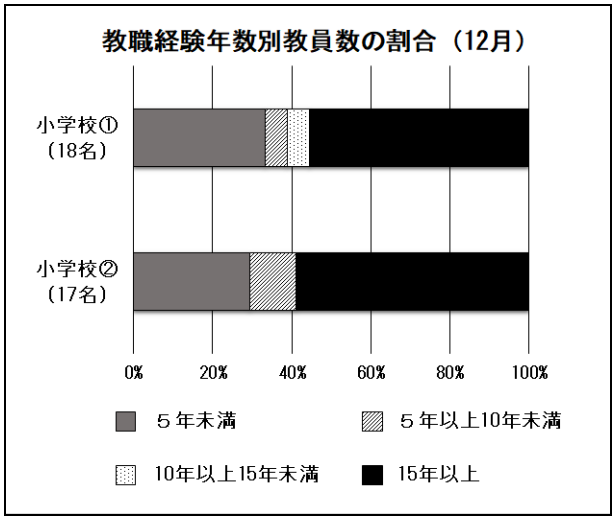


図 12　教職経験年数別教員数の割合（12 月）

各校の研修担当者が、教育目標や研究教科、課題等を考慮し、校内研修で使用する研修セットを選択した。各校が使用した研修セットは以下のとおりである。

【小学校①】
A　　：「主体的・対話的で深い学び」について
B－１：学習指導要領についての理解

【小学校②】
B－３：思考ツールの活用

⑶　アンケート調査結果の分析及び考察

ア　研修セットの内容について

校内研修実施後、協力学校２校にアンケート調査を行った。

「研修動画の内容はどうでしたか。」という質問に対しては、「とても分かりやすかった」「分かりやすかった」と回答した教員がほとんどであった（表２）。

表２　研修の内容について（８月　２校31名）

項　　目	人数	割合
とても分かりやすい	10人	32%
分かりやすい	20人	65%
分かりにくい	0人	0%
とても分かりにくい	0人	0%
その他	1人	3%

内容に関する記述を教職経験年数別に見ると、経験年数５年未満の教員からは、「基本を振り返ることができて良かった」「学習指導要領について再確認できた」など、勉強になったという感想が多かった。一方で、経験年数10年以上の教員からは、「この内容であれば、多くの先

生方は知っているのではないか」「分かりやすかったが、もう少し踏み込んだものでも良かった」という意見が出ていた。このことから、研修動画は、分かりやすく基本が押さえられる内容であったが、教員によっては、少し物足りないものであることが分かった。

また、「配付資料もあり、資料に目を通した状態で進められたので、理解を深めることができた」「例を基に、演習しながら視聴することができ、大変分かりやすかった」と、研修セットの構成について、有効性が認められる記述が見られた。その反面、「静止画が多かったので、大切なところには、動画でアンダーラインを引くなどの工夫があると、更に良くなると思う」「ＩＣＴを活用する中で、思考ツールを、どのように取り入れていくかを知りたかった」という改善点についての記述も見られた。

「演習や協議の内容はどうでしたか。」という質問に対しては、ほとんどの教員が「とても良かった」「良かった」と回答した（表３）。

表３　演習や協議について（８月　２校31名）

項　　目	人数	割合
とても良かった	10人	32%
良かった	20人	65%
良くなかった	1人	3%
とても良くなかった	0人	0%

演習や協議については、「動画で学んだ内容について、演習を通して理解度がより高まったと思う」「説明を聞くだけでなく、実際にやってみることで、分かっていない内容にも気付くことができた」「思考ツール（くらげチャート）を使う場合、児童がどんな場面に戸惑うかイメージすることができた。思考ツールの選択の難しさを実感することができた」という意見が見られた。

また、「演習の中で、自分が研究授業をする教科や、担当の教科について、演習、確認ができると良いと思った」という意見からは、より実践的で、授業改善にすぐ生かせる演習を求めていることが分かる。

「研修時間はどうでしたか。」という質問では、「とても良かった」「良かった」と回答した教員が94%、「長い」と回答した教員が６%であった（表４）。

表４　研修時間について（８月　２校31名）

項　　目	人数	割合
ちょうど良い	29人	94%
長い	2人	6%
短い	0人	0%

「動画の長さは適切で、分かりやすかった。演習ができるのも良い。集中して取り組める時間であった」「15分程度の動画で、見やすかった。研修時間が長いとなかなか取り組めないが、この時間であれば自己研修として空き時間に見ることができる」など、負担なく取り組めたという意見が多く見られた。

「研修で学んだ内容は、指導に生かせると思いますか。」の質問については、100%の教員が、「とても思う」「思う」と回答した（表５）。

表５　実践について（８月　２校31名）

項　　目	人数	割合
とても思う	8人	26%
思う	23人	74%
思わない	0人	0%
全く思わない	0人	0%

その理由として、以下のような記述があった（一部抜粋）。

- 全教科の学習指導要領をじっくり分析する時間はなかなかないので、良い機会になった。
- 今回の研修セットは、具体的な指導場面でどのように活用するかが教示されており、生かしていきたいと思える内容であった。
- 主体的・対話的で深い学びやアクティブラーニングの重要性に改めて気付き、可能な範囲で取り入れていかなければならないと感じた。
- 具体的なツールの形態を知り、指導内容に合わせて思考ツールを工夫することができるので、授業に生かせると思った。
- どの教科の、どの単元で、どのツールを使うのかを見極める教師の力が必要である気がした。
- 基本的な事柄は理解できているが、もう少し専門的なものも今後、受講していきたい。

受講した教員は、実際の指導に生かすためにどのような配慮や工夫が必要であるかを考えていることから、研修が、授業改善の具体的なイ

メージにつながるものであったと考えられる。

管理職や研修担当者からは、「経験の浅い若年教員にとっては、学習指導要領を身近に感じられる内容である」「若年教員を指導するベテラン教員にとっては、指導上の効果的なツールになると思う」「研修パッケージの中に、自校の研究に生かせる内容があったので、効果的な場面で活用していきたい」という回答があった。これらのことから、本研修パッケージが、課題解決に向けて学校全体で共通理解を図る、教育実践の蓄積を共有するなど、校内研修充実の一助になったと考えられる。

また、視聴した研修動画について調べたところ、校内研修で使用した研修動画だけでなく、その他の研修動画も活用して自己研修を行っていることが分かる（図 13）。

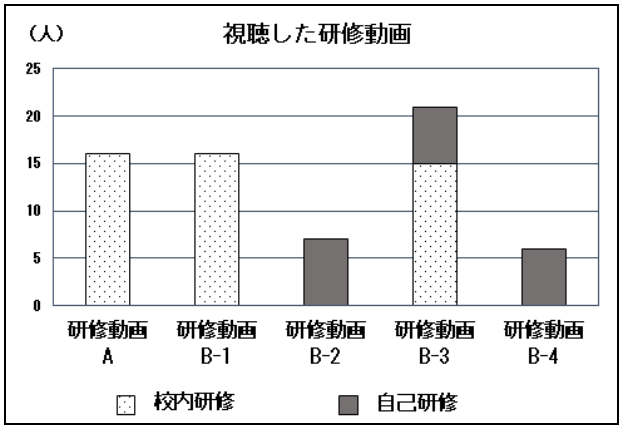


図 13　視聴した研修動画

イ　研修後の授業改善について

⑺　研修内容の活用

「研修パッケージの内容を、授業改善に生かせたと思いますか。」という質問には、「思う」「少し思う」の回答が72％で、「思わない」の回答は28％であった（表６）。

表６　授業改善の状況（12月　２校29名）

項　　目	人数	割合
思う	7人	24%
少し思う	14人	48%
思わない	8人	28%
全く思わない	0人	0%

授業改善に生かせなかった理由としては、「担当する校務では難しかった」という意見や「まだ理解が十分ではなく、思うように生かすことができなかった」という意見が見られた。

また、研修内容の活用状況を教職経験年数別で見ると、経験年数に関係なく、研修内容を授業改善に活用することができていた。これらのことから、どの経験年数の教員についても、研修セットが授業改善に向けた取組におおむね有効であったことが分かる（図 14）。

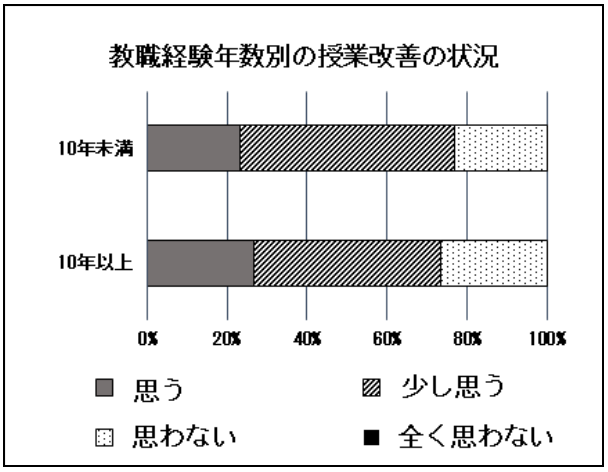


図 14　経験年数別の授業改善の状況

⑴　授業改善の実際

協力学校において、研修パッケージを活用した校内研修で学んだことを生かした授業改善の取組を紹介する。

ａ　第３学年　道徳科「本当の友達」

研修セットＡ、Ｂ－１を活用した校内研修に参加した教員は、研修内容を踏まえて、教材研究、指導案審議に取り組むことで、目指すゴールをはっきりさせることができた。

教材の前半を読んで、仲の良い友達に「宿題を忘れたから答えを教えて」と言われた登場人物が、どのような気持ちであったかワークシートに記述し、ペアで考えを伝え合った（図15）。

なかよしの友だちがへるのはいやだけど、しゅく題は、自分でやらないとだめだからなやむ。どっちが正かいか分からない。

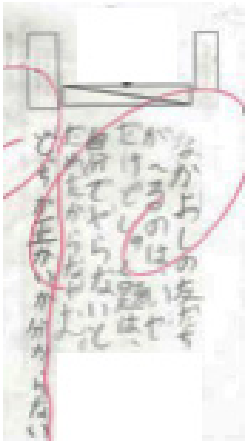


図15　ワークシート「なかよしだから」

その後、思考ツールを活用して、自分の考えを視覚的に表現し、考えを交流させた。道徳スケールを板書することで、少数意見の発言も促

すことができ、意見のバトンを児童から児童へとつなぐことができた（図16）。

図16　道徳スケールの活用

終末に、ワークシートを使って本時の学習を振り返らせた。以下は、同じ児童のワークシートの記述である。

【授業前半】

◎　「ぼく」の顔をじっと見て黙っているとき、実はどんな気持ちだったでしょうか。
とても仲良しだからって、宿題は教えない。ぼくは、困らないから。

【授業終末】

◎　今日の学習を振り返って、気付いたことや、これから大切にしたいことなどを書きましょう。
これから、友達に対して教えていいこと、その子のためにならないことを考えて、友達との仲を深めていきたいです。

始めは、「ぼくは、困らないから」と自分のことだけを考えた記述が見られたが、授業を通して、友達のことを考えた行動をとろうとする記述が見られるようになった。このように、授業改善を行うことで、児童の発言やワークシート等において、児童の本音を引き出したり、発表が苦手な児童にも意思表示をさせたりすることができた。

ｂ　第２学年　国語科「そうぞうしたことを音読げきであらわそう」

研修セットＡ、Ｂ−１を活用した校内研修に参加した教員が、学習指導要領解説について理解を深め、本単元でねらいとしていることを明確化して学習指導計画を立てた。登場人物になりきって音読ができるようにするため、登場人物の行動、会話、様子、挿絵に着目させ、会話の背景にある心情を読み取らせた。授業の様子は以下のとおりである（一部抜粋）。

Ｔ：教員　Ｓ：児童
Ｔ　：がまくんの気持ちが、どこの言葉から分かるか、ペアで相談してみましょう。
Ｓ１：17ページの「（中略）」のところからです。もう本当は、ぼくも嫌なんだよという気持ち。待ちたいけど面倒くさいから待ちたくない。（中略）
Ｓ２：「今までだれもぼくにお手紙くれなかったんだぞ」のところ。かえるくんが嘘をついているみたいだから、かえるくんはもう仲良しの友達じゃない。（中略）
Ｔ　：こんながまくんの様子を見て、かえるくんはどうしましたか。
Ｓ３：お手紙来ないなあと思いながら窓の外を見ました。
Ｔ　：「見ました」と似た言葉があるんだけど、探してみてください。
Ｓ４：「窓の外をのぞきました」が３個くらいある。
Ｔ　：「見た」ってどうするの。体を動かしてみて。「のぞきました」ってどうするの。体を動かしてみて。

叙述や挿絵を基に、登場人物の表情・口調・様子を具体的にイメージさせる工夫をしたことで、児童は、根拠となる文章中の言葉を示して、登場人物の気持ちを発表することができた。また、教員が児童のつぶやきをうまく拾って授業に生かし、考えを共有することができた。友達の考えを聞き自分の考えを広げ、ワークシートに登場人物の気持ちを書き込んだ（図 17）。

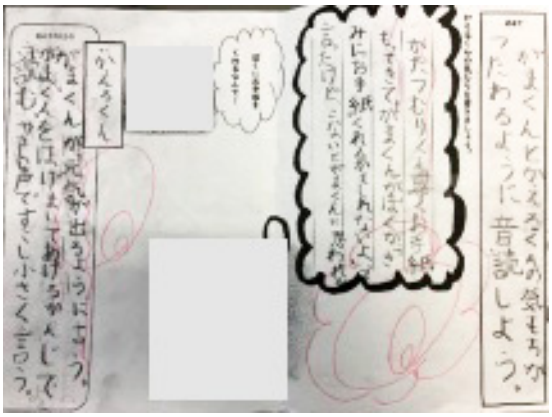


図 17　「お手紙」ワークシート

読み取ったことを基に、登場人物の気持ちや場面の様子に合わせて読み方を工夫し、グループで役割音読を行った（図 18）。

図18　役割音読

c　第５学年　国語科「世界遺産　白神山地からの提言」

研修セットＢ－３を活用した校内研修に参加した教員は、意見文を書く単元で思考ツールを活用した。意見文を書く前段階で、白神山地の自然保護について「人が自然とふれ合いながら守る」「人が自然とふれ合わないで守る」のどちらの立場であるかをはっきりさせ、自分の意見をベン図に書いて考えをまとめさせた。異なる立場の友達と話し合い、相手の意見をベン図の反対側に書き込むことで、両方の意見の良さを知ることができた。また、白神山地で、核心地域と緩衝地域の両方を設けている理由などにも考えが及んだ児童がいた（図19）。

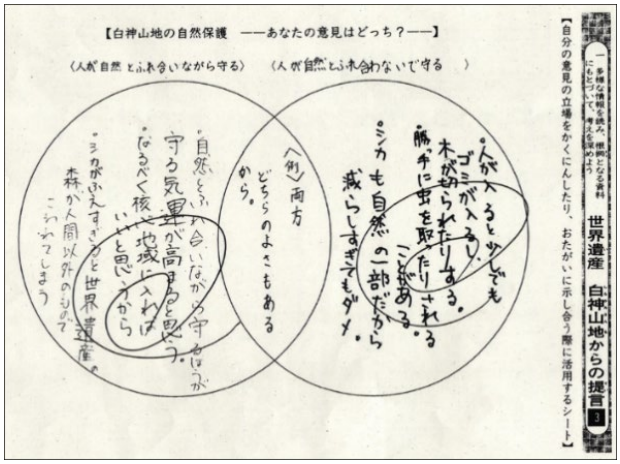


図19　ワークシート「白神山地の自然保護について」

(ｳ)　そのほかの取組について

研修パッケージの学びをどのように生かしたのか尋ねたところ、以下のような記述が見られた（一部抜粋）。

・学習指導要領の理解が深まった。授業を作る際にも、学習指導要領をよく読み、低学年・中学年・高学年のつながりを考えることができた。教科間のつながりを意識しながら授業を考えることもできた。
・国語で詩を作る授業のとき、児童の発想を広げる場面で思考ツールを活用した。自由につなげていく形を使ったところ、語句や表現方法を増やすことにつながった。
・国語科と社会科で伝統工芸や郷土芸能の内容を学習する際、横断的に捉えて学習課題を設定した。

このように多くの教員が実際に授業改善に取り組んで手応えを感じ、70％を超える教員が「授業改善に生かせた」と回答していることから、研修パッケージは、授業改善に役立つとともに授業改善に取り組む契機にもなり得る、非常に有効な支援の手段であると言える。

(ｴ)　授業改善後の変容

「授業改善に取り組んで、どのような効果がありましたか。」という質問に対して、「各教科、単元の目標やゴールを意識した授業を考えることで、以前よりも内容のしっかりとした指導ができるようになった」「日頃、十分に研修や授業準備の時間が取れていなかったが、授業改善について意識が高まった」などの記述があり、教員が自身の成長を感じている様子がうかがえた。

また、「これまでは、ペア活動で、話すことが分からずに困っている児童が多数いたが、ほとんどの児童が、自分の意見を進んで友達に伝えられるようになった」「児童が意欲的に学習活動に取り組んだ。書く活動でもイメージが膨らみ、具体的な内容を書くことができた」など、児童の変容についての記述も見られ、授業改善を通して、学習活動が活性化され、児童の変容に手ごたえを感じていることが分かる。

管理職や研修担当者からは、「研修パッケージの活用により、先生方が自信を持って授業に臨むようになった」「研修内容を指導に生かすことで、先生方も効果を感じることができた」などの記述が見られ、研修パッケージが授業改善に役立ったと考える。

(ｵ)　協力学校の課題

「現在、授業を行う上で困っていることや解

決したいことはありますか。」という質問についての回答の中で、授業改善に関する記述は以下のような内容であった（一部抜粋）。

【指導の工夫について】
・コロナ禍での「主体的・対話的で深い学び」の学習形態の工夫や音声表現の方法を模索していきたい。
・主体的・対話的活動をとり入れると楽しく進めることができるが、習熟の時間を確保するのが難しくなることがある。
【ＩＣＴの活用について】
・ＩＣＴを活用した効果的な学習指導の在り方を考えている。

３　研究のまとめ

本年度、研究を進めるに当たって、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善に向けた校内研修の充実を重点に置き、「学校負担は小さく、研修効果は大きく」をテーマに学校への研修支援の研究に取り組んできた。

協力学校の実践から、研修パッケージの提供が、学校の負担を増やさず、校内研修を充実させるのに有効であることが分かった。校内研修の充実によって、教員一人一人が学びを深めるとともに、学校全体の取組について共通理解を図り、より実践的な研修にすることができた。さらに、教員が自信を持って授業改善に取り組み、研究授業で授業実践の蓄積を全教員で共有するなど、学びの質を高める授業改善につながった。

これらのことから、研修パッケージは、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善に向けた研修に、効果的であったと考えるが、今後は、より多くの学校や教員のニーズに沿った研修パッケージになるよう見直しが必要である。また、協力学校から挙げられている、ＩＣＴを活用した効果的な学習指導の在り方等の課題に対応した研修セットの検討も必要である。

この研修パッケージは、多くの学校が活用することによって、教科等指導力の向上、学びの質を高める授業改善の推進が期待できると考える。今後も、研修パッケージについて周知を図るとともに、全ての学校、全ての教員への研修支援の在り方を研究していきたい。

なお、本研究の成果と課題を踏まえて、研修パッケージを改善し、本センターの出前講座（オンデマンド配信）で提供する予定である。

主な参考文献

○文部科学省「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」2016
○文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』2017
○文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総合的な学習の時間』2017
○文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）』2017
○文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』2018
○文部科学省　国立教育政策研究所教育課程研究センター『学習評価の在り方ハンドブック』2019
○文部科学省　国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』2020
○田村学・黒上晴夫『こうすれば考える力がつく！中学校思考ツール』小学館　2014
○田村学『授業を磨く』東洋館出版社　2015
○田村学『深い学び』東洋館出版社　2018
○黒上晴夫・小島亜華里・泰山裕「シンキングツール～考えることを教えたい～」http://ks-lab.net/haruo/ 2012
○黒上晴夫「ロイロノート・スクール　シンキングツールを学ぶ」株式会社LoiLo　https://n.loilo.tv/ja/thinkingtool　2019